

2017年度 信州大学 実験・実習技術研究会 参加報告

高柳 充寛 情報システム支援グループ

1. はじめに

実験・実習技術研究会は、総合技術研究会と隔年で開催されており、全国の大学・研究所・高専の技術系職員による日常業務の中での改良や改善、新たな取り組みなどについての発表や情報交換の場となっている。今回は信州大学 長野(工学)キャンパスで開催され、参加者は約340名であった。本学からは山田、河原、小杉、菅田、高柳の5名が参加した。

2. 概要

期日：平成 30 年 3 月 1 日(木)～3 日(土)

場所：信州大学 長野(工学)キャンパス

主催：国立大学法人 信州大学

シンポジウム：専門技術職制度 20 周年記念
シンポジウム

記念講演：地域を元気にする産学連携と
人材育成

講師：天野良彦 教授

ポスター発表

口頭発表

信州大学の各プロジェクト展示ブース

「工作分野」技術交流会

施設見学及び実習(長野市内の3企業)

3. 研修内容

1日目の午前に「専門技術職制度 20周年記念シンポジウム」が開かれ、パネリストが所属する各機関での歴史と現状が紹介された。技術職員の処遇改善に関連して専門技術職が他機関ではこうなっているという情報は貴重であると感じた。1日目の午後は記念講演とポスター発表があった。「地域を元気にする産学連携と人材育成」と題した講演は地元密着型の産学連携、地域貢献の紹介

であった。講師のキャラクターや労力に依存しているように受け取れたので、コーディネートや技術指導などに関してプロジェクトリーダー以外のスタッフとして技術職員の関与する余地があるように感じられた。ポスター発表に関しては、本学から「化学系学生実験における安全教育と技術職員研修」として、河原と小杉が連名で発表した。

2日目には口頭発表が10会場8分野で行われた。ポスター、口頭発表ともテーマの選択や教材の工夫、安全衛生に関する取り組みなど多くが興味深い内容であった。展示ブース出展内容も地域密着型の産学連携プロジェクトの紹介が多く、また紹介と併せて山葡萄、唐辛子など該当商品の即売も行われていた。

3日目には長野市内の3企業を回る施設見学および体験実習が行われ、山田が参加した。

4. 終わりに

本研究会で見聞したことを自らの糧とし、今後の業務遂行に多少なりとも生かせるように日々努力していきたいと思う。



図1. シンポジウム開始前の会場の様子